（バルセロナオリンピック・バドミントン女子日本代表選手）

# 陣内 貴美子さんに、バドミントン競技者の視点から LED照明について語っていただきました。

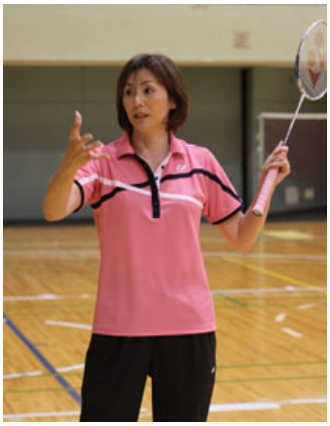
体育館の水銀灯、メタルハライド灯等をLED 照明に置き換えることで、電気料金は約 1/2 ～ 1/3 大幅に削減できます。
また、長寿命なので管球交換の手間も省け、瞬間点灯＆可能なので運用面でもそのメリットは大きいのですが、「明るさは十分なのか？」「光の色味は？」「LEDの光は強烈で、眩しいと聞いているが？」の、主に 3 つの懸念点があります。
そこで体育館で行われる競技の中で、照明にとって条件的に難しいとされるバドミントン競技（シャトルが小さく速い、弾道が高い等）の第一人者である陣内 貴美子さんに実際に現代 LED 製 HW-240 を設置した東京・深川スポーツセンターで実際にプレーをしてもらい、LED 照明についての感想を語って頂きました。

日本を代表するバドミントン選手。91 年の全英選手権女子ダブルスでは、バルセロナオリンピック優勝の鄭素英（チェン･ソーヤン）／黄恵英（ハン・ヒー・ヤン）組と接戦を演じるなど、世界のトッププレイヤーとして高く評価された。1992 年バルセロナオリンピック日本代表選手として活躍。1994 年引退。現在はキャスターとしても活躍中。

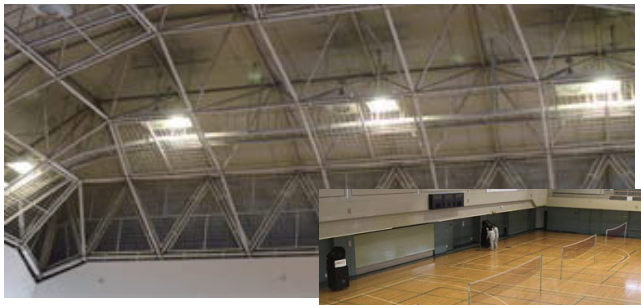
## バドミントンって、そんなに照明ばかり見ている訳じゃないですよ！（笑）

まず、床面全体を見た感じで言えば、これはどちらも同じ、変わらないですね。（体育館は水銀灯と LED 照明半分ずつ）こっちが LED 照明、と言われなければパッと見はわからないですね。言われて照明を見上げて良く見てみると、確かに LED の方は光が粒々になっている事でわかりますけど。
バドミントンは、随分と上を見上げているイメージがあるみたいですが（笑）高いロブが上がっても見上げるのは一瞬ですから、実は照明を見つめる、ということは無いですよ。（笑）
今回はあえて高いロブやスマッシュなど、なるべく照明が眼入るようにやってみますね。（笑）

■今回テストを行った、深川スポーツセンター大体育館は、比較用に半面を LED、半面を水銀灯（メタハラ灯）として使用しています。
全面使用時に両方の照明を同時に使用しても違和感のない配光、配色、照度としてあります。



■大学生の女子バドミントン選手と約 30 分間プレーをした印象では懸念された眩しさや残像感等は感じられず、むしろ LED 照明の光のほうが優しく、柔らか、と語る陣内さん。

## 比べてみると、LED 照明の方が光が優しいというか、柔らかいですね。

確かに、バドミントンはシャトルを高く打ち上げた場合は、照明が眼に入る事もありますよね。それは今までの照明（水銀灯等）でも同じで、試合の戦略としてそれを利用する場合もあるんですよ。
バドミントンの競技だけで言うと、光源を斜めに傾ける事が一番効果的。でも一般の体育館ではそういう訳にもいかないですから、確かに天井の照明は気になるでしょうね。そういう事から、高いロブやスマッシュを打ち続けて、なるべく天井の照明を見るようにしたのですが（笑）照明の光の印象で言うと、意外にも LED の方が光が柔らかいですね。眩しいということも無いです。むしろ今までの照明（水銀灯）の方が、眼に光源の残像は残りますね。私としてはバドミントンに LED 照明、全然問題無いと思いますよ。（深川スポーツセンターに設置されたLED 照明は、現代 LED製240W 眩しさ防止カバー付き）